

○ 病虫害防除法（畑作物共通）

1 畑作物共通

（１）畑作物における薬剤散布量の目安

作物名	生育ステージ	10 a 当たり散布液量
サツマイモ		100 ～ 300 ｌ
サトウキビ	生育初期 生育中期 生育後期	100 ｌ 150 ｌ 180 ｌ 以上
大豆		100 ～ 150 ｌ

※ 但し、散布薬量の定められた農薬は使用基準に準じる。

（２）環境と調和した防除の基本的考え方

本県の畑作物においてはハスモンヨトウなどのチョウ目害虫，コガネムシ類や有害センチュウ類などの土壌害虫の被害が問題になっている。このことから，病虫害防除は安定生産を図るために，欠くことのできない重要な作業である。これまで防除の手段として，効果が高く省力的であることから，化学農薬に偏った防除が行われてきた。このため，病虫害の抵抗性の発現，天敵の減少，周辺環境への悪影響等を招いている。そこで，本県においては，化学農薬のみに依存せず，耕種的防除法，物理的防除法，生物的防除法の防除技術を組み合わせた総合的防除を行う環境と調和した農業を推進している。

（３）畑作物における化学農薬低減技術

ア 抵抗性品種の利用

病虫害に強い品種を栽培する。サツマイモでは，サツマイモネコブセンチュウに対する抵抗性を持つ品種を，サトウキビでは黒穂病やさび病などに対する抵抗性を持つ品種を利用する。

イ 耕種的防除

健全な種子を用い種子伝染性の病害を予防する。害虫の生息場所であるほ場周辺の除草を行うことでほ場への侵入を防ぐことができる。

ウ 生物農薬の利用

サツマイモでは，センチュウ類に対するパストリア水和剤が利用できる。

エ 対抗植物利用技術

輪作体系にクロタラリア，ギニアグラス，エンバク，落花生などの対抗植物を取り入れることでセンチュウの増殖を抑制できる。

オ 輪作

センチュウによる被害を軽減するためには，センチュウが増殖しにくい作物との輪作が効果的である。さらに，輪作作物に対抗植物を利用すると有効である。サトイモでセンチュウを抑制するには，サツマイモのセンチュウ抵抗性品種や落花生等との輪作が有効である。